

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、ご利用者の支援に努めます。理念に基づき、事業計画書を作成している。また、作成した事業計画を理解し、実施するために、月1回の定例会議にて確認しあっている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や研修などを通じて、事業の目的や運営の方針が記載された書面を配布することで共有し、全職員に周知徹底を図っている。事業計画書を全職員に配布するとともに、毎月開催しているスタッフ会議、勉強会の場を活用し、周知徹底を図っていくことを継続して行っていく。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	行事、教室、イベント等を、家族や地域の方にお知らせし、参加していただいている。	<input type="checkbox"/> 家族や地域の方へも楽しみながら利用者と一緒に過ごることができる企画を考えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域に開かれた事業所であるよう努めている。喫茶コーナーや研修室は、地域の方々がどなたでもご利用いただけるよう開放し、ご利用いただいている。また、ご利用者を対象に行っている各種教室などにも地域の方々がご参加いただけるようお知らせしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	積極的に地域の催しに参加している。	<input type="checkbox"/> 地元小学校区の盆踊り大会や自治会等が主催する各種イベントにも参加しているが、今後は活動の域を広めていきたい。

グループホーム美樹の園 ユニット2 朱雀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	教室、映画、エステ等、すべて地域に開放し、暮らしの一部として活用していただけるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、いただいたコメントをもとに改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回開催し、出席者からいただいたご意見や情報をサービス向上のために活用している。	○	今後も引き続き、いただいたご意見や情報を大切に、サービスの向上に努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現時点では、特に市町村担当との行き来する機会を持っていない。	○	必要に応じて、取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員が研修等には参加していないが、研修を受けた職員が勉強会などの機会を通じて全職員にも周知している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、勉強会を行うなど、学ぶ機会を持っている。	○	引き続き、全職員が意識を統一し、知識を身に付けていくため、勉強会や研修に参加していきたい。また、虐待防止に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項説明書などについては、十分にご理解いただくよう努めているとともに、疑問や質問には十分にご理解をいただけるよう説明している。</p>	<p>○</p> <p>今後も、より分かりやすく説明しご理解いただけるように努める。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者やご家族からの「声ボックス」を設置し、その声は、スタッフ会議等で内容等を分析し、今後の運営に活かせるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後もいただいた「声」を運営に活かしていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご面会時や月1回書類等をお送りする際に、お知らせしている。</p>	<p>○</p> <p>ご面会時に少しでも話す機会を設け、少しでも多くのご利用者の情報をお知らせする。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者やご家族からの「声ボックス」を設置し、その声は、スタッフ会議等で内容等を分析し、今後の運営に活かせるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後もいただいた「声」を運営に活かしていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見、提案等は、スタッフ会議等において聴き取っている。また、フィードバック時、個々に意見を聞き取っている。</p>	<p>○</p> <p>常勤、非常勤を問わず、運営に活かせる意見や提案は、常に反映させていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご利用者、ご家族の要望にもできるだけ対応できるよう、調整可能な職員配置にしている。また、計画作成担当者できるだけフリーな勤務にしている。</p>	<p>○</p> <p>状況の変化や要望に対応できるよう、配置の定着をしていきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職は極力抑えられるよう配慮しているが、入れ替わりがある時は、指導期間を設け、ご利用者の生活に影響が出ないよう配慮している。</p>	<p>○</p> <p>職場環境が原因の離職が出ないよう、働きやすい環境作りを取り組む。</p>

グループホーム美樹の園 ユニット2 朱雀

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修は月1回確保し、年2回はフィードバックを行い、指導する時間を確保して、法人外への研修も積極的に参加している。</p>	<p>○</p> <p>法人内研修の充実と、法人外研修への参加を、今後も行っていく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>堺市南区内のグループホームの連絡会に参加している。</p>	<p>○</p> <p>南区の連絡会は2ヶ月に1回、堺市の連絡会は6ヶ月に1回行っている。この会を有効活用する。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>不規則な勤務であるが、勤務に偏りが出ないように配慮している。残業せず円滑にできるよう、日々意見交換をしている。</p>	<p>○</p> <p>ストレスを軽減できる環境作りを考え、取り組んでいく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回人事考課を実施し、個々の評価を行っている。個々に目標を持って取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>各自の意見を吸い上げ、ひとりひとりが向上心を持つことができるように努める。</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時、入居時、本人の希望、要望、不安なこと、思いをアセスメント表を用い、聴き取っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込み時、面会時などに、家族が許す限り聴き取っている。</p>	

グループホーム美樹の園 ユニット2 朱雀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	待機等ですぐに入居できない状況であるので、法人の他のサービスを説明したり、他のグループホームの空き状況を伝えている。	○	今後も家族、本人の状況を理解把握し、必要なサービスを支援していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時まで環境にできるだけ慣れていただけるように、併設のデイサービスの利用、体験、見学等、又イベントにも参加していただけるように声掛けを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩であることを忘れず、必要なときに必要なケアを提供するが、時には入居者から学び、思いをともに感じられている。	○	今後もよい関係を大切にしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	蜜に連絡を取り、思いを共にすることで、より良い関係が築けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人はもちろん、家族にも生活歴を聞き、すべての関係を理解し、関わっていけるよう努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	絵手紙や電話を使い、大切な方との関係が途切れないよう努めている。	○	これまでの関係を大切にしていけるよう、絵手紙のほかにも手段を考え、取り組んでいきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う仲間を把握し、孤立している方には職員が間に入り、入居者同士よりよい関係が作れるよう、支援している。	○	入居者同士が支えあい、充実した生活が送れるような関係作り、ができるよう、支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ライフスタイル充実委員会を発足し、道しるべを使用し、ケアプラン作成時には、本人と家族の意向を聞き、取り入れている。又、月に1度の事例検討会で本人の意向等の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ライフスタイル充実委員会を発足し、道しるべを使用し、生活歴や環境など細かな情報の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ライフスタイル充実委員会を発足し、道しるべを使用し、ケアプランチェック表により7日分の様子を総合的に把握できるようにしている。	○	記録の内容で、1日の過ごし方がより把握できるよう、工夫していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ライフスタイル充実委員会を発足し、道しるべを使用し、居室担当チェック表や気付きカード。事例検討会議で意見を出し、ケアプランに反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ライフスタイル充実委員会を発足し、道しるべを使用し、定期的にはもちろんのこと、状態が変われば都度見直している。又、医師、家族とのカンファレンスも行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に漏れがないかを定期的を確認し、ケアプランの見直しに活用している。また随時、記録の書き方を学び、ケアプランに反映できる充実した記録を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスへの無料参加		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している			
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時には日頃の様子を伝え、良い関係を築いている。往診日以外でも電話での相談や他医療機関への紹介等もいただいている。又、他の病院への受信支援を行っている。		

グループホーム美樹の園 ユニット2 朱雀

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	24時間体制の訪問看護ステーションとの関係を密にし、いつも顔なじみの看護師が協働してもらえるようにしていく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	退院後は、在宅の主治医及び入院中の主治医が互いの立場を尊重しあい、支援できるように日々色々な関係者と良い関係が築けるようにしておく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	必要に応じて蜜に話し合いを行っていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	ターミナルケアを行うにあたって、施設の理念を理解し、職員の意識を統一するために指導していく。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	家族及び本人の意見を尊重し、移り住む際には、家族、本人の意思を尊重し、了解、納得していただけるように支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇、言葉遣いについての勉強会を行い、ひとりひとりが心掛けている。記録等も確認を行い、取り扱いに十分注意している。	○ 定期的に接遇についての研修や勉強会、自分たちの姿を振り返る機会を作り、意識していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ライフスタイル充実委員会が発足し、自己決定を優先し、できる限り自分らしさを引き出せるような支援を目指している。	○ アセスメントを活用し、ひとりひとりが力を発揮できるための支援ができるよう、取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ライフスタイル充実委員会が発足し、職員尾ペースで動くのではなく、私たちが入居者のペースにあわせ、必要なときに必要な支援をしていくよう心掛けている。	○ 今後もこの気持ちを忘れず、入居者中心の生活を行っていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ライフスタイル充実委員会が発足し、月に1度、理容、美容、エステが施設に訪問し、利用している。	○ 個性を出せる場やメニューなどを作る取り組みを行ってきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューについては、委託業者が行っているが、端、湯呑み、茶碗は自分の好みのものを使用し、準備、食事、片付けは入居者と職員と一緒にしている。	○ 季節の行事の際には、行事にちなんだ食事を作っている。手作りする機会ももう少し増やしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望に応じ支援している。	○ 疾患がある方で、カロリー制限や飲酒制限の方でも何かの代替で嗜好を満足するような支援を常に考えていく。

グループホーム美樹の園 ユニット2 朱雀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗のある方でも、おむつを使うのではなく、まずは排泄パターンをつかみ、トイレで排泄できるよう努めている。おむつを使うときも順を踏み行っている。	○	できる限りおむつを使用せず、トイレでの排泄に取り組んでいく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ、本人の希望する時間に入浴できるよう支援している。毎日入浴。入浴可能な時間 13:00~20:30		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間眠れない方には、足欲やホットミルクなどリラックス効果があることを支援している。日中は状態に応じ必要な方には、1~2時間休んでいただいている。そのときはゆったり流れる音楽を流すなど工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	当施設独自のアセスメント表を活用し、よりひとりひとりを知り、充実した日々を過ごしていただけるよう支援している。	○	教室やイベントを充実させ、楽しみごとを増やしていくよう取り組みたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望がある方は、現金を所持し使われる。	○	所持金に関しては、入居前に紛失しても問題ない範囲で、ということ伝えて、了承していただいているが、自己管理ができるよう取り組みたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物m外食など希望に沿って、できる限りの支援を行っている。	○	外に出る機会を今以上に設けられるよう努めたい。ライフスタイル計画を企画する。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回、居室担当が希望している外出先を聞き出し、外出の機会を作っている。遠足や花見、旅行、コンサートなど		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置している。希望により、居室に電話回線がある方もあり、自由に話ができるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室の他に、喫茶スペース、家族室も完備しており、ゆったり過ごしていただけるようにしている(家族室は宿泊も可)。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動制限廃止委員による勉強会やマニュアルにより、身体高速を理解し、拘束しないケアに努めている。	○	職員の一言一言が、行動制限になっていないのかなど常に意識して対応できるように定時、随時指導していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベータや玄関は行動を制限するための施錠ではなく、交通が激しい場所に立地しているため、安全を優先しての施錠をしているが、出かけたときはいつでもスタッフが付き添い、出かけている。	○	今後は安全管理委員会とともに、開錠を目標に、安全管理面でどうすればよいか検討している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	共同スペースには常時スタッフが1名待機し、居室で過ごされる方については、言葉掛けに注意しながら、さりげなく誘導し、安全に配慮している。夜間、2～3時間毎に巡回を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個性を大切にすることをまず第一に考えており、物品をなくすのではなく、危険予測を行い防止することで、環境を極力変えないよう取り組んでいる。	○	危険予測を全職員ができるように、職員の質の向上のため、研修や勉強会、事例検討を繰り返しながら行う。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全管理委員を中心に、リスクマネジメントの勉強や自己対応策などを考え、事故防止に取り組んでいる。	○	常勤、非常勤の定期的な勉強会にて知識を学び、事例検討会で個々の対応をしているが、検討する時間が調整できるように努力する。

グループホーム美樹の園 ユニット2 朱雀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に救急対応や心肺蘇生法等の勉強会を行っている。	○	デスクワークだけではなく、実技での勉強会も取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日勤帯と夜勤帯を想定し、避難訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒、異食など入居時と状態の変化がみられ、リスクを予測できるなど常に家族と話し合う機会を持ち、理解していただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタル測定を行っている。異変があれば、まず日直へ報告、日直→っ計画作成担当者→管理者への連絡ルートを徹底し、情報の共有に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを作成し、全スタッフが理解できるようにしている。配薬マニュアルを作り、投薬方法の統一を図っている。	○	気の緩みや慣れが投薬ミスにつながらないように、定期的に服薬管理について話し合う場を設ける。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	整腸作用のある飲み物の提供やラジオ体操、散歩等の運動を促している。食事、運動などの援助で快便、快眠を促しながら、落ち着いた生活を送っていただけるように継続していく。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、歯磨きやうがいのケアを行い、週に1度は義歯消毒を行っている。口の中の汚れがひどい方は、歯科の往診にて処置している。	○	歯科医より現場の職員に対して、ブラッシングの方法などを指導していただいているが、継続して行っていく。

グループホーム美樹の園 ユニット2 朱雀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、個人の観察表に記録し、把握しているが、水分摂取量については、必要な方のみ記録し、把握する。献立は、業者が立てており、バランスやカロリー計算はされている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会があり、勉強会やマニュアル作りを行っている。	○	外出し、帰園したときや面会者の方へのうがい、手洗いの要請など、小さなことを継続して行うことが、リスクの面からも健康管理面からも重要であると思う。委員会、勉強会を通じて、意識を常に持つように心掛けたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	祝辞は、業者が行っている。調理用具等はハイター消毒を行い、衛生管理に努めている。おやつ作りや好みに応じた一品づくりなどを職員とともに行うときは、新鮮なものをその日のうちに使い切るよう心掛ける。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームの玄関窓口として、どなたでも気軽の出入りがしやすいように、玄関には草花を植え、エントランスには喫茶コーナーを設けている。事務所の事業計画に”常に気持ちよくお越しいただけることができる窓口であるように努める”と明記し、意識付けをしている。又、草花の水遣りやエントランスの清掃に気を配っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースでのテレビやステレオの音量は、スタッフが気にかけて調節を行っている。光の差し込む部分にはカーテンを設置し、光加減を調節している。テーブル等には、季節にあわせて花などのレイアウトを変えていき、季節感を出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ダイニングテーブルとそふあーの2ヶ所の空間を、又、廊下にもソファーを設置している。ひとりになりたいときには居室で、みんなと一緒にいたいときはリビングで、本人の意思を尊重した援助を常に考える。		

グループホーム美樹の園 ユニット2 朱雀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や物品をお部屋に置いて、今までの生活をできるだけ崩さないように心掛けている。また、家族、本人の意向を重視し、安全面の配慮を行いながら、基本的には居室のレイアウトは家族の意向に近い配置を行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計、湿度計を各ユニット2ヶ所ずつ設置している。喚起については、1日数回行っている。又、トイレには、自動的に消臭できるような設備が備わっている。各居室は、換気がスイッチひとつでできるようになっているので、定期的に換気を行うことが容易である。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等すべての部分に手すりを設置している。又、室内は広く、車椅子での移動も十分動きやすいように設計されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室担当チェック表、アセスメントツール(道しるべ)を活用し、ケアを工夫している。	○	できりうこと、又は少し援助すればできることは、自らやろうとする気を起こさせるような職員のコミュニケーションにて技術を身に付ける。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りには季節の草花を植え、又、ベランダは入居者と草花を育てられるようプランターなどを設置し、天気の良い日には散歩、ひなたぼっこなどを行っている。	○	広いベランダで入居者全員が一緒になって活動できるレクリエーションなどの工夫を今以上にしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム美樹の園 ユニット2 朱雀

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・各教室(フラワーアレンジメント、押し花、絵手紙、書道)を先生をお招きして、定期的(月1~2回)に行っている。教室の参加は、地域や家族にも開放している。
- ・理容、美容、エステも毎月定期的に行っている。
- ・映画の日を設けている。
- ・家族がいつ来られても宿泊できる。
- ・グループホーム入居の方は、併設のデイサービスに無料でいつでも参加できる。
- ・法人内の他事業所利用者との交流がある。